

## 第三者評価結果

### A-1 利用者の尊重と権利擁護

		第三者評価結果
A-1-(1) 自己決定の尊重		
【A1】	A-1-(1)-① 利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	a
<コメント> 個別支援計画を始め、日々の支援において、居住者が前向きに考えられるよう検討することや、課題が生じたときには自身で振り返り、共に課題解決が図れるよう支援して。脳梗塞を発症し、車椅子の自操が困難な居住者が、それでも自分で動きたいと、手すりにつかまりながら車椅子で移動している。本人の思いを尊重し、どうしたら危険なく移動できるか検討している。本人の意向確認や意思の表出が難しい場合は、家族や後見人と連携し、医師などの専門的見地を踏まえて、支援方針を検討できるようにしている。華道や囲碁などのクラブ活動や、ローリングバレーの参加なども、本人が希望する活動に参加してもらうよう支援している。居住者の権利に関しては、職員が権利保障研修などを通して定期的に学び、理解・共有するよう努めている。		
A-1-(2) 権利侵害の防止等		
【A2】	A-1-(2)-① 利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている。	a
<コメント> 権利保障システムの中核に、苦情解決システムを位置付けている。身体拘束については、アセスメントシートに内容と理由を記載し、本人や家族へ説明して同意をもらっている。また、モニタリングシートや、年度末総合評価にその状況と評価を記載し、その後の継続の可否をモニタリングしている。現在、対象となる行為の根拠となる部分を、より明確化できるよう検討している。自傷行為のある方で、入浴時に自傷や胃ろうのチューブを抜去してしまう行為がある場合には、家族の了解を得て、ミトンの手袋を使用することがある。年2回、苦情受付担当会議を開催し、苦情や苦情につながりそうな事例を法人の各事業所間で共有し、課題について意見交換を行っている。虐待として対応したケースはないが、埋もれている事例があると常に意識して、予防に努めている。職員の言葉遣いを基本に置き、信頼関係ができると言葉が乱れてくることがあるので、職員間で注意している。		

### A-2 生活支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 支援の基本		
【A3】	A-2-(1)-① 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	a
<コメント> 法人の基本理念に「自由、自主・自律」を置き、居住者のニーズを「生活に対する意向」として整理し、明確にしている。明確にしたニーズを「解決すべきニーズ」として、目標に掲げ、居住者が目標に向かって生活できるよう支援している。日常生活における動作については、見守りや一部介助など、本人の意向や機能を意識して介助している。行政などに関する手続きは、職員のみで行うのではなく、本人とともに手続きをするようにしている。状況により職員が代理で行う場合も、その経過や結果を本人に知らせ、理解してもらえよう取り組んでいる。		

【A4】	A-2-(1)-② 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>数年前から「居住者を見る」ことを、事業所のテーマとして、居住者との日々の関わりを増やしている。本人を取り巻く環境的な要因、人的要因、得意なもの、苦手のものなどを、図表にまとめ、本人のストレングスを探し出す取り組みを行っている。また、日中活動日誌に、居住者の日々の表情や態度などを記入し、この方はこんなことが好きだったんだなど、意外な発見をしている。意思伝達が困難な方は、スマートフォンを利用して文字で伝えたり、文字盤を使ったり、ジェスチャーでコミュニケーションをとったりと、様々な手段で意向を確認するよう工夫している。</p>		
【A5】	A-2-(1)-③ 利用者の意思を尊重する支援としての相談等適切に行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>居住者と話す機会を多く持つよう、数年前から取り組んでいる。支援担当者は、1ヶ月に1回は、必ず今月はどうだったか、居住者と一緒に振りかえる機会を作り、課題があった場合は、どうすれば解決できるかを一緒に考えている。居住者のフェルトニーズ(利用者が感じるニーズ)を確認して、必要に応じて関係部署と連絡し、リアルニーズ(真のニーズ)に近づけられるよう支援している。障害により、自分の感情がコントロールできない方の場合は、今どんな気持ちなのか考える時間を作って、気持ちの整理ができるよう支援している。自身で意向を伝えることが困難な方は、より多くの情報から一番よい状態を保つことができるよう、情報収集のスキルアップが必要であると考えている。</p>		
【A6】	A-2-(1)-④ 個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>日中活動は、本人の希望するスポーツや華道などのクラブ活動、アロマセラピー、カラオケなど、できるだけ多くの活動を準備し、日ごろのアセスメントから、その方に合った過ごし方を提供している。自身で生活を組み立てるのことに支援が必要な方は、身体状況や本人の意向を踏まえた上で、趣味活動室で個別製作や共同製作などを行っている。参加した様子を写真などで掲示し、そこで感じた思いなどを残すことや、参加していない方へ情報を提供している。日中活動委員会があり、クリスマス会、秋祭りなどの計画を立てて、参加を募り楽しんでいる。パソコンの打ち込みの練習をしたり、漢検に挑戦するために、漢字の練習をしている方など、それぞれの趣味や考えにより、日中活動を楽しんでいる。</p>		
【A7】	A-2-(1)-⑤ 利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>居住者が抱える障害だけでなく、その方の性格や生活歴を踏まえ、その人を知る取り組みを行っている。生活歴から、昔は地域のお店によく行っていたことがわかると、懐かしいお店に外出できるよう調整している。また、普段と異なる行為があった場合は、日誌や支援記録、リスクマネジメント報告書に記載し、その情報を基に今後の支援の検討を行っている。居住者間でトラブルが発生した際には、両者が話し合える場を設け、お互いの気持ちを確認できるようにしている。行動障害のある方には、ライフサポート(個人の情報がすべてファイルされているもの)関連の書類に内容を記載し、定期的にモニタリングを行って、支援方法を見直している。</p>		

A-2-(2) 日常的な生活支援		
【A8】	A-2-(2)-① 個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>居住者からのアンケートや日々の検食結果から、居住者の意見を栄養管理担当者に報告している。食事は皆楽しみにしているので、意見を献立に反映している。毎月の誕生会では、特別なお重やランチボックスを用いて、豪華な雰囲気の中、季節の食材を使った料理を提供している。月1回、「お寿司の日」があり、握り寿司やチラシ寿司、海苔巻など、居住者が好きなものを出前で注文している。特別浴槽や中間浴槽、一般浴槽を備えているが、身体的な面で特別浴槽を利用する方が多くなっている。居住者は、週3回ゆっくりと入浴している。電動車椅子や車椅子で移動する方が多く、介助を必要とする方が増えている。生活支援について、ケアマニュアルを整備し、居住者の意向を確認しながら、個別支援計画に基づいて支援している。</p>		
A-2-(3) 生活環境		
【A9】	A-2-(3)-① 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>清掃作業をルーチン化して、施設内外の清潔を保つよう努めている。各居室にエアコンを設置し、居住者が快適に過ごすことができるよう配慮している。廊下などでエアコンのない箇所が一部あるが、扇風機やヒーターなどを使用している。居室のベッドには、いつでも職員に連絡できるようナースコールを設置しているが、麻痺のある方や押すことが困難な方には、位置を工夫したり、レバーを引く、プレスで呼ぶなど、その方に合った装置を設置している。施設の老朽化や、個別ニーズへの対応が十分でないこともあるが、居住者と十分に話し合い、できる部分を提示して理解を得ている。</p>		
A-2-(4) 機能訓練・生活訓練		
【A10】	A-2-(4)-① 利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>月1回、提携する病院の理学療法士が来所し、リハビリテーションが必要な方のメニューを決めて、実施している。また、日常生活上の訓練についての助言をもらい、居住者は日々の生活の中で、身体を動かしている。リハビリテーションの見直しは、看護師や医師、理学療法士など医療面からの見地で行っている。メニューの変更などは、リハビリ担当職員が状況を観察して、関係者につなげて支援している。</p>		
A-2-(5) 健康管理・医療的な支援		
【A11】	A-2-(5)-① 利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>食事の進み具合や排泄などから、居住者の日々の健康状態の把握に努めている。医師や看護師の指示により、食事量や排せつの状況をチェックし、その後の診察につなげている。施設訪問医が定期的に訪れ、居住者の状態を確認している。また、看護師は平日の日中に常駐し、胃ろうの方へのケアや各種処置を行っている。常に痰の吸引が必要な方が3名ほどいる。介護職も資格を持っているが、医療的ケアが必要な方は、看護師が対応することが多い。居住者の体調急変などにすぐに対応ができるよう、看護師による研修も定期的に行っている。体位ドレナージ(体位を変えることで排痰を促す)の方法、感染症予防、爪の切り方などの研修を行っている。</p>		

【A12】	A-2-(5)-② 医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>胃ろうを造設している居住者は、本人の状況カードに、何時どれだけ注入したか、看護師が記録している。入浴後には、ポカリスエットの注入など、その方に合った方法を決めている。生活員が痰の吸引などの行為を行うこともあるが、医師や看護師の指示の下、安全に行えるよう努めている。医療的な処置や薬の管理は看護師が行っている。服薬に介助が必要な方も多い。誤与薬防止のため、職員が二人で朝、昼、夕の薬の確認と、名前の確認をダブルチェックし、服用後は空袋をトレーに載せて確認している。</p>		
A-2-(6) 社会参加、学習支援		
【A13】	A-2-(6)-① 利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>日中活動として、陶器製作などを行い、地域のイベントで展示したりしている。また、他法人の事業所で、ビーズ製作やクッキー作り、資源集めなどを行い、社会参加をしている。本人が意欲を持って継続できるよう、関係者間で連携をとり、本人のニーズに応じたプログラムとなるよう配慮している。外出泊を希望する方が多く、家族やボランティアの協力を仰ぎ、可能な限りニーズに応えられるよう、車両の貸し出しなども行っている。</p>		
A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援		
【A14】	A-2-(7)-① 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>希望者は多くはないが、地域での生活を望む居住者には、本人の身体状況などを確認して、できるだけ希望に添うことができるよう、関係者と連携を取りながら支援している。単身生活を想定し、施設内の体験室で一人暮らしを体験し、その中で、何ができて、何が困難かを見極めていくようにしている。地域生活に向けて、自身で行える日常生活動作をあらためて確認し、自立した生活を送ることができるよう目標を立てて支援している。</p>		
A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援		
【A15】	A-2-(8)-① 利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>最高年齢が86歳となり、居住者の高齢化が進んでいる。それに伴い、家族の高齢化も進み、家族の体調不良などが起きている。後見人がついている方も、6人と増えてきている。毎週あるいは毎月、必ず面会に訪れる家族もいるが、コロナ感染症の関係で面会を遠慮してもらっている。現在、事前に予約を受け、短時間の面会を実施している。家族が来所できないため、担当職員が定期的に家族に電話して、居住者の状況を報告している。中止になる行事も多く、恒例の秋まつりも、規模を縮小して開催している</p>		

### A-3 発達支援

		第三者評価結果
A-3-(1) 発達支援		
【A16】	A-3-(1)-① 子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。	
<コメント>  施設入所支援により、評価外とする。		

### A-4 就労支援

		第三者評価結果
A-4-(1) 就労支援		
【A17】	A-4-(1)-① 利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	
<コメント>  施設入所支援により、評価外とする。		
【A18】	A-4-(1)-② 利用者に応じて適切な仕事内容等となるように取組と配慮を行っている。	
<コメント>  施設入所支援により、評価外とする。		
【A19】	A-4-(1)-③ 職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	
<コメント>  施設入所支援により、評価外とする。		